

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

氏名	佐々木 洋子
(研究テーマ名) 日本における ADHD 当事者・家族への支援の諸相	
(研究活動実績) <p>本研究は、ADHD（注意欠如・多動性障害）について、逸脱の医療化という観点から研究を進めている。日本では 1990 年代以降、ADHD の認知が高まるとともに、当事者や家族に対していかなる支援をおこなうかがひとつの課題となっている。そこで平成 25 年度は、日本の ADHD 当事者・関係者の置かれた状況と、支援の実態を明らかにするために、(1)「診断の社会学」の枠組みに依拠しつつ、国内外の ADHD 当事者・関係者の置かれた状況についての文献調査、(2) ADHD 当事者や親のセルフヘルプ・グループや、ADHD（および発達障害）の子どもをもつ親に対するペアレント・トレーニングでの参与観察と、参加者へのインタビュー調査をおこなった。これらの成果は、一部については第 86 回日本社会学会（10 月 12 日 於 慶應義塾大学）で口頭発表した。今後、学術雑誌等を通じて公表していく予定である。</p>	